

標準委員会 第7回基盤・応用技術専門部会議事録

1. 日 時 2010年6月8日（火） 10：00～11：30

2. 場 所 航空会館801会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員） 岡本（部会長），萩原（副部会長），吉田（幹事），岩崎，越塚，堺，
平山，上野，石塚，西田，大山，沼田（邦），笠原，宮坂（14名）
（代理出席委員） 田中（山内代理），七田（青木代理），塩見（浦上代理）（3名）
（欠席委員） 山口，市川，木下，堀田，沼田（博）（5名）
（事務局） 岡村

4. 配付資料

配付資料

ATC7-1 前回議事録（案）
ATC7-2 人事について
ATC7-3-1 「放射線遮へい計算のための線量換算係数：200〇（改定案）」公衆審査結果
ATC7-3-2 放射線遮へい計算のための線量換算係数（改定案）公衆審査意見対応（案）
ATC7-3-3 日本原子力学会標準「放射線遮へい計算のための線量換算係数」（改定案）
ATC7-4 高速増殖炉に関する標準化について
ATC7-5 分科会活動報告
ATC7-6 標準の体系（案）
ATC7-7 書面投票の電子化について

参考資料

ATC7-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿
ATC7-参考2 標準委員会の活動状況

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、委員22名中、代理委員を含めて17名が出席しており、成立に必要な定足数（15名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（ATC7-1）

前回議事録（案）については、事前に送付済みであり承認された。

(2) 人事について（ATC7-2）

分科会の人事について、資料ATC7-2に基づき事務局より次の通り紹介が行われた。

委員の退任【報告事項】

①有効高さ評価モデル分科会

日高 昭秀（(独)日本原子力研究開発機構） 2010年5月11日退任

②廃止措置分科会

中澤 公一（大成建設(株)） 2010年5月28日退任

池田 諭志 ((財)原子力研究バックエンド推進センター) 2010年5月28日退任
佐野 一哉 ((独)日本原子力研究開発機構) 2010年5月28日退任
山内 豊明 (日本原子力発電(株)) 2010年5月28日退任
酒井 仁志 ((株)東芝) 2010年5月28日退任

委員の新任【承認事項】

①有効高さ評価モデル分科会

本間 俊充 ((独)日本原子力研究開発機構) 2010年5月11日選任

②廃止措置分科会

石原 哲 (大成建設(株)) 2010年5月28日選任

梶谷 幹夫 ((財)原子力研究バックエンド推進センター) 2010年5月28日選任

北山 尚樹 ((独)日本原子力研究開発機構) 2010年5月28日選任

田中 健一 (日本原子力発電(株)) 2010年5月28日選任

福島 正 ((株)東芝) 2010年5月28日選任

審議の結果、全委員の新任が承認された。

- (3) 「放射線遮へい計算のための線量換算係数(改定版)」(案) 公衆審査結果と対応について(ATC7-3-1~3)

放射線遮蔽分科会の主査である平山委員より、資料ATC7-3-1~3に基づき、「放射線遮へい計算のための線量換算係数(改定版)」(案)の公衆審査で1件意見があったが、誤記の指摘であり、資料ATC7-3-2のとおり修正して対応するとの説明が行われ、承認された。

- (4) 高速増殖炉に関する標準化について(ATC7-4)

堺委員より、資料ATC7-4に基づき、高速増殖炉の研究開発の現状、指針類及び技術基準の体系化、標準化の計画の状況に関する報告が行われ、今後、JAEAが計画を具体化する段階で再度報告することが依頼された。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 原子力学会では何を行うことになるのか。
 - 安全の考え方や評価などの具体化。
 - PSAなど、他の専門部会の所掌のものもあるが、全体的な議論は本専門部会でいい、そこから各専門部会に振り分ける形にしたい。
 - 安全評価解析(V&V)は本専門部会のミッションになる。
 - 軽水炉と共通の話ではないか。
 - 実際は考え方に違いもあるので、共通のものとするかは分からない。
 - 燃料安全の考え方は原子力学会か。
 - 燃料に関する民間規格の策定は、軽水炉の動向を踏まえる必要があり、現在検討を進めているところである。また、炉心のCDA評価などもポイントとなる。
- ・ 廃止措置は、相当大変な作業である。IAEAでも言われているが、廃炉も考えておいた方がよい。
- ・ 今後可能なら、基準全体の整備方針について、どの学会でなどアプローチも含めて

報告していただきたい。

(5) 分科会活動状況 (ATC7-5)

廃止措置分科会の主査でもある岡本部長より、「原子力施設の廃止措置の計画：2009」の保安院技術審査の状況並びに「原子力施設の廃止措置の実施（改定版）」策定作業の開始について説明が行われた。また、放射線遮蔽分科会主査の平山委員、有効高さ評価モデル分科会委員の沼田委員より、それぞれ分科会の活動状況について報告が行われた。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 「原子力施設の廃止措置の計画と実施：2006」の実施部分には、オリジナルのレポートから引用したものではない図表が含まれている。オリジナルを良く調査し、図表を入れ替えるべき。その方が図表もきれいなものになる。
- ・ V&Vの検討はどうなっているか。
→ 研究専門委員会の第1回を4月に開催したところ。今年度最低4回の委員会を開催する予定。標準の下敷きになるようなものをまとめたい。

(6) 標準の分類について (ATC7-6)

事務局より、標準の分類（案）について説明が行われた。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ ASMEはどうなっているのか。
→ 国の規制に利用されるものがコードとなっているようである。
- ・ なるべく国際標準に合わせていくことが良いと思う。

(7) 書面投票の電子化について (ATC7-7)

事務局より、標準委員会の書面投票について、電子化の運用を開始すること及び当面の運用について説明が行われた。

(8) その他

次回専門部会は、9月とし、別途日程調整を行うこととした。

以上